



## ～ きょうだいを育てる工夫 その1・第一子 ～

親子よりも長く付き合うことになるきょうだい。同じ親なのに性格がずいぶん違うことが多く、親たちは対応に戸惑いながら育てていきます。きょうだいは助け合ったり、思いやったり、親に言えないことを話したりという良い関係のときもあれば、ケンカをしたり、ときには憎しみさえ抱くことがあります。成長しても長く続く良い関係を築くには親の配慮が必要です。それぞれの特性を伸ばして幸せに育てる工夫について考えましょう。今回は第一子についてです。

第一子は親もつい育児に熱を入れすぎることがあります。あるいは不安や緊張が高くなったり、神経質になることもあります。熱心なあまり口出しが多すぎると、本人は自分で判断していく土台作りがうまくいかなくなることとなります。身近に年齢の近いモデルがないことが多いため、子どもは未知の世界に一人で出ていくという感覚を持つこともあります。そのため大人から見て慎重すぎる、積極性に欠けるように感じることもあるかもしれません。自信が持てるように良い面をほめ、安心感を持てるように「大丈夫だよ」というメッセージをたくさん伝えてあげましょう。期待をかけすぎて重荷にならないよう、子どもの意思を尊重することも大切です。手のかかる下の子がいる時、長子は親のために役立ちたいと自分なりに頑張っています。姉・兄役割を押し付けないように、あたり前のように我慢を強いないように気をつけましょう。「よくやってくれているね、ありがとう」とねぎらってあげたいですね。